

## 概要報告書

団体名	公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会
事業名	少年問題シンポジウム

公益社団法人全国少年警察ボランティア協会はさる11月14日、東京・港区虎ノ門のニッショーホールにおいて全国の少年警察ボランティアなどを集めたシンポジウムを開催した。今回のシンポジウムには、少年警察ボランティアをはじめ、警察職員、学校関係者ら552人が参加し、4時間にわたり基調講演やパネルディスカッションを熱心に聴き入った。

19回目となる今回は「次代を担う少年の育成のために～立ち直り支援として、今、何をすべきか～」をテーマに、家庭、学校、地域において果たす役割と必要とされる活動について、各方面の担当者が意見を交わした。

開会の冒頭には、遠山敦子・同協会会長のあいさつに続き、来賓である岩瀬充明・警察庁生活安全局長があいさつをした。

その後、土井隆義・筑波大学人文社会系教授が『「見つめられる存在」から「見つめる存在」へ～少年の立ち直り支援に必要なこと～』をテーマに講演した。

また、パネルディスカッションでは、文化学園大学現代文化学部・野口京子教授をコーディネーターに、紀恵理子・法務省長野少年鑑別所長、滝澤雅彦・東京都八王子市立松木中学校校長、野口義弘・福岡県小倉南警察署少年補導員、青木修・警視庁少年育成課少年相談専門職員の4人パネリストとコメンテーターとして土井隆義氏も加わり、それぞれの会見を述べるとともに、会場から寄せられた質問にも答えながら、活発な討議が行われた。



注) 上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。財団法人社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。